

社協だより

昭和63年2月1日

編集 発行
社会福祉法人
美浦村社会福祉協議会
老人福祉センター内
☎ 85-0038



ぼくのおじいちゃん

大や小一ねん たけのしたまなぶ

ぼくのおじいちゃんは、六十七さいですがしゃきつとしていて、せがたかいです。

かおはながつぽそいです。

おふるにはいるときは、

「いつしよにはいるうよ。」

いつもこえをかけてくれます。また、おでかけするときは、おとうさんのくるまでいかないで、おじいちゃんのかくるまでいきます。

おじいちゃんは、まだまだくるまのうんてんもじょうずなのです。

おとうさんにおこられたときは、ぼくのことをたすけてくれて、ぼくをしんばいしてくれます。

「ありがたう。おじいちゃん。ながいきしてね。」

こんなふうにおじいちゃんは、やさしくしてくれたりデパートへいったときは、おもちゃをかってくれたりするのだからです。

そのおじいちゃんが、いまびょうきでにゆういんしているのです。

ぼくは、まいにちおみまいにいきました。

「おじいちゃん、がんばってね。」

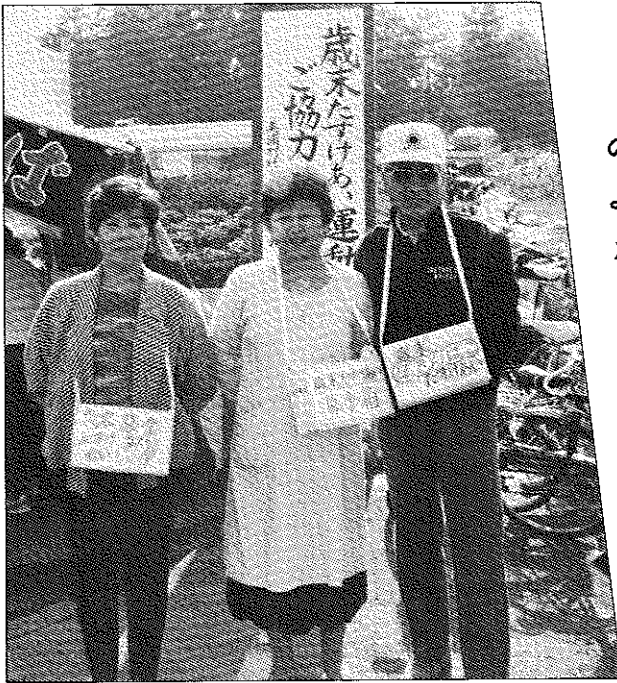
とぼくがいうと、

「まなぶは、ありがとうだね。」

と、いって、ぼくのあたまをなでくれました。

ぼくは、はやくいつものげんきなおじいちゃんになってくれるといいなとおもっています。

「おじいちゃん。はやくなあってね。またぼくたちとあそんでね。」



社会福祉協議会は「ともに生きる人間のまち……みほ」を目標標語とし、住みよい生活環境のまちづくり実現をはかるため、高齢者の福祉を中心とした地域福祉協力体制の実現をはかります。

このため、村民のみなさんの参加を願い、民生委員の協力を得て、村内の組織に働きかけ、特にボランティアの育成と活動の推進を基本的姿勢として事業に取り組んでいます。

ごあいさつ

美浦村社会福祉協議会会長・村長

市川 紀行



村民各位、各団体・企業の皆様には美浦村社会福祉協議会の諸活動に対して深いご理解を頂き、善意あふれるご援助で協力を賜っておりますことを心より御礼申し上げます。さて、このたび活動の一環

村社協副会長・美浦村議会議長

鈴木 三千雄



寝たきりとなっている老人

を家族で看護する介護者の一時解放と、そのお年寄りの入浴や、リハビリ的な援助指導をいただく目的で一時保護をお願いするために、稲敷郡の町村で東村にある特別養護老

人ホーム内に、四つのベッドを一千万円ほどかけて設置した。現状はこのベッドは殆んど利用されていないという。わが村でも二十一名の寝たきりのお年寄りが居る。本人は勿論のこと、家族も大変な苦勞をされていることと思う。もう少しで二十一世紀となるが高齢化社会はピークとなる。当然のこととしてお年寄りにも障害を持つ方が多くなるであろう。特に行政に求められる老人

として広報紙を単独に発行いたすことになりました。美浦村の福祉の現況、福祉活動のあり方、どんな福祉が求められているのか、あるいはボランティアの方々をはじめ村民参加の活動の姿など、紙面を通じてお知らせできることは、今後の福祉全体の輪を広げ、一層ご理解を深めて頂く大きな力となるものと信じています。新年度は「我がまちボランティア」事業も新しく始まります。この広報が本村福祉の発展に役立つことを祈ってごあいさついたします。

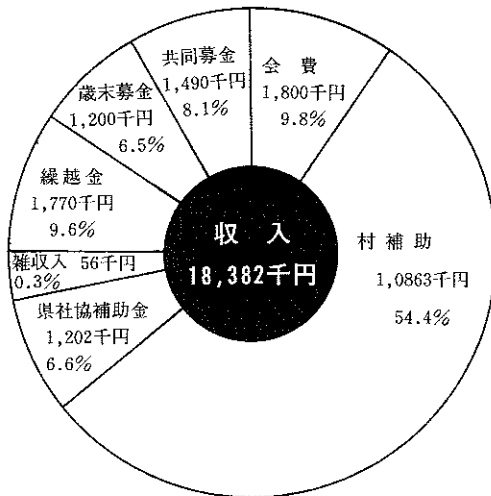
福祉問題の重要さと人間生活と福祉について考えさせられるときである。国や自治体の援助も税金に財源を求めるなかでは決して無限とはならないということである。

ここに地域の人達の「たすけあい」「思いやり」の心を具現化し、その中心となって推進する役割が、村民各位の会員組織による参加が社会福祉協議会の姿であろうと思う。このため、徐々に村の協議会の組織を充実し、より活発なる活動を進めるべくみなさんのご協力を願いたいものであります。

昭和
62年度

社協予算と事業のあらまし

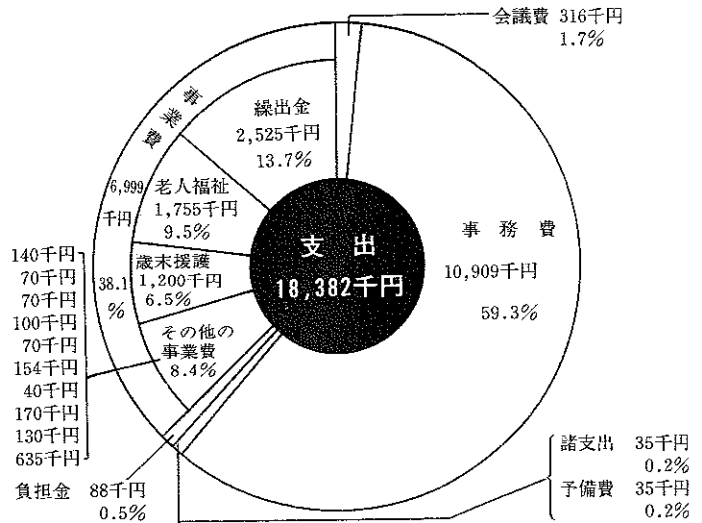
▼ 予 算 ▲



本会の活動は住民の組織が主体となり、会費、共同募金、歳末たすけあい募金により運営されることが基本的考えです。一方では、行政の補完的役割りを持つものであるの、村からの人件費一〇〇%補助及び、特別の事業に対する助成と、県からの補助により成立っており、

※会費は一般・五百円
特別・千円以上
法人・一万円以上

となっており、共同募金、歳末募金も同額とし、全戸の協力をお願いしております。

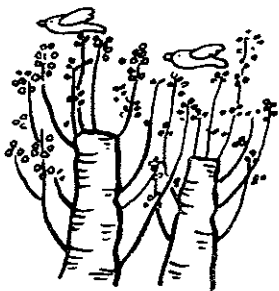


事務費（人件費ほか）が六〇%の支出となり、次いで、心身障害者社会適応訓練施設運営費、並びに、心配ごと相談事業への繰り出し金となります。

老人福祉事業の支出は一〇%となり、事業としては高いウエイトを占めております。（以下支出グラフ参照）

▼ 主 な 事 業 ▲

- 児童福祉対策
 - ▽子供の遊び場の設置助成
 - ▽カーネーションの配布
- 老人福祉対策
 - ▽三世代ふれあい事業（歩け歩け大会・クロック大会）
 - ▽敬老会▽喜寿の祝▽おせち料理の配布▽各クラブ育成等▽ひとり暮らし、ねたきり老人の慰問
- 身障者対策
 - ▽スポーツ大会への参加▽研修並びにレクリエーションの実施
- ボランティア対策
 - ▽地域に多くのボランティア活動に参加していただくための育成、研修▽おせち料理、食事サービス▽敬老会等の協力、参加活動
- 広報活動
 - ▽社協だより▽社協関係チラシの配布
- 善意銀行推進
 - ▽社会福祉基金（山ゆり基金）への協力推進
 - ▽歳末たすけあい運動
 - ▽低所得、保護家庭、身障者、ねたきり老人、施設入所者等の歳末慰問
- 母子家庭福祉対策
 - ▽母と子の集い▽研修への参加
- 福祉教育事業
 - ▽福祉の心の醸成のため小、中学校児童、生徒の作文集の発行
- 繰出金
 - ▽ホープ農場就労のための障害者への援助▽心配ごと相談事業の推進



でじむじむ

三世代 クロッケー 大会

真剣な眼ざしで、スティックを力強く握る孫のそばで、熱心にコーチするおじいちゃんや、おばあちゃんと一緒にあって、コートの中でゲームが展開されていきました。



まさに三世代の人たちの一心同体の瞬間が過ぎていきます。
「やった」とほくそえむ人、残念がる人、そして一打の行方に喚声をあげる人々。
お盆明けの八月十六日の厳しい真夏の太陽の下で、社会福祉協議会と老人クラブ連合会主催による「三世代ふれあい事業」クロッケー大会は、村内四十四チームの参加によりそれぞれの年代の人たちが持てる力を一杯に出し、和気あいあいの雰囲気ですんでい

きました。あいさつに立った市川社協会長(村長)の言葉を借りるまでもなく、二十一世紀の高齢化社会にスムーズに対応できるようわが村は心の準備をしているのです。
この大会も、村老人クラブ趣味クラブであるクロッケー部の多くの役員が献身的な援助を得て成功裡に終わりました。

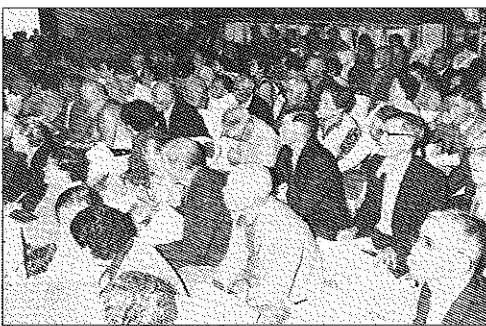
優勝チームは八十三才になった尾島ワカさんの登宿チームでした。そして、今日参加してくれたお父さんや、お母さんとこの子供たちが二十一世紀における心豊かな社会を支える人達であることにさらに力強いものを感じました。

敬老会は お芝居で

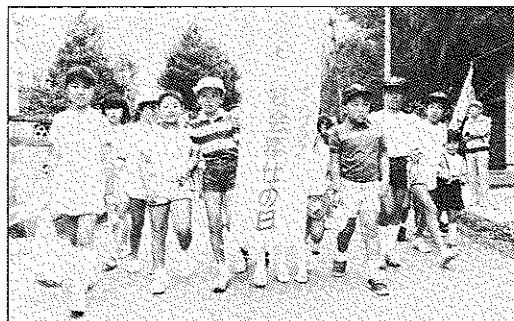
村には千三十三名の七〇才以上のお年寄りの方がおります。恒例の敬老会には五百二十一名の方々が出席され、村長ほか来賓の人のお話しに耳を傾けられ、また可愛い孫達の敬老作文発表の温い心に接し涙ぐみ、楽しいお芝居などを見物しながら、村人の思いやりのなかで一日を過しました。

三世代交流の 歩け歩け大会

お互いに恵まれた世の中になると家族間でも個々の部屋をもち、話をする機会がなくなり、健康と三世代間の交流を兼ねて小学校区単位に歩け歩け大会を、九月二十日(日)に実施いたしました。それぞれの地区には、昔から伝わっている歴史がありま



お年寄りを知り、子どもを理解する良い場であるうかと存じます。三地区で六百余名の参加でしたが、将来は村中こぞって参加できるようなものにしたいものです。



おせち、食事 のサービス

いろいろな社会的な事情があつてひとりぐらしになられたお年寄りはなにかと容易でない生活があるものです。地域に住む人は、つねに思いやりとたすけあいの心を、「気くばり」としてお願いをしたいものです。その一つと

して本会も村内に住む四十三名のひとりぐらしのお年寄りにボランティアのみなさんの力をかりて、歳末にはおせち料理を作りお届けいたしました。大変に喜んでいただいたようでございます。

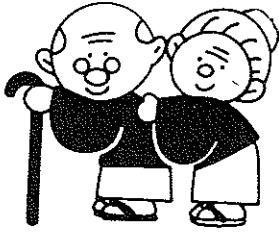
なお、日頃、お一人のためなにかと不自由な生活にあると思われるひとりぐらしのみなさんと、食事を共にしながら、一日を過ごしていただくため、ボランティアの方の交代による料理献立をしていただき、会食、映画会などをしました。

「たすけあい」 は仲間で

地区内に住む老人クラブ会
員が、村老人クラブ連合会の
事業として、社協からの援助
をうけてひとりぐらし老人と
の交流を深め安心した生活を
送れるよう家庭訪問や、集会
所などでの会合をもち、お互
いの交流をしていただくもの
です。これは既に役場住民福
祉課が実施している「友愛訪
問」のヤクルト配達を、直接
老人クラブの会員が実施しよ
うとするものです。



同じ仲間がお互いの心を一番良く理解していることと、高齢化社会における老人クラブの社会活動、福祉への参加に大きな力があり、また期待されているものに対するわが村の老人クラブ会員達の対応の現れでもあるでしょう。



心身障害者の 社会適応 訓練施設

最近までの福祉施策は、不幸にして身体に障害が生じ社会生活が容易でなくなると、人々はその障害に適した福祉施設に収容しようとする風潮がありました。

人間の生きることの幸福は、親族は勿論のこと、地域に住む人々がお互いにたすけあいをしながら暮らして来たその土地で生活できることが最高であると考えられるようになってまいりました。

このため、村は比較的重度の心身障害者（児）を対象として自宅から通える、働くことのできる場を提供し、障害者の安定した生活を確保すべく、大山地区に居住する新井一郎氏が経営する「有限会社あらい農場」の篤志援助と、県の



ホープ農場

（有）あらい農場の好意による一泊温泉旅行や、施設が主催する梨刈りなどのレクリエーション、また、年末には、役場の住民福祉課長さんをお交えてのモチつき大会を実施し、村長さんを囲んでのクリスマスパーティーを盛大に催すなど楽しい一日を過ごしました。地域のみなさんの理解とご協力を得ながら地域福祉の灯を、もっと強く大きくして行くべく努力してまいりたいものです。

助成を得て、「心身障害者社会適応訓練施設美浦村作業所」名付けて希望のひろば「ホープ農場」を六十二年四月から開所いたしました。

障害者を毎日の送迎により（有）あらい農場の経営する農作業に従事し、働く喜びと併せて就労報酬としての収入を得ると共に、加えて仲間意識を持ちながら共同生活のできる素晴らしい環境が設置されております。

このような施設は郡内に江戸崎町と新利根村にあります。なお、通所している人達は、



社協はみなさんの会費で運営されます

○一般会費 500円
 ○特別会費 1,000円
 ○法人会費 10,000円

社会福祉協議会では、全戸会員として社協活動の支えとなる会費納入を5月にお願ひしました。区長さん(社協評議員)方のご協力により総額2,187,640円となりました。

また、特別会員として、議会議員、民生委員、村内の官公庁に勤務する職員及び村内各企業のみなさんのご協力をいただきました。

会費納入一覧表(昭和62年度分)

| 地区 又は部署名 | 区分 | 一般 | | 特別 | | 地区 又は部署名 | 区分 | 一般 | | 特別 | | 地区 又は部署名 | 区分 | 一般 | | 特別 | |
|-------------|----|-----|---------|----|--------|-------------|-----|-------|-----------|----|--------|-------------|-----|---------|-----------|---------|--|
| | | 口数 | 金額 | 口数 | 金額 | | | 口数 | 金額 | 口数 | 金額 | | | 口数 | 金額 | | |
| 浜 | 戸 | 66 | 33,000 | | | 八根 | 井 | 2142 | 21,000 | | | 特別会費 | | | | | |
| 山 | 宿 | 60 | 30,000 | | | 根 | 火 | 37 | 18,500 | | | 議会議員 | 18 | 54,000 | | | |
| 田 | 丁 | 31 | 15,500 | | | 牛 | 込 | 27 | 13,500 | | | 民生委員 | 18 | 54,000 | | | |
| 上 | 中 | 38 | 19,000 | | | 木 | | 18 | 9,000 | | | 役場関係職員 | 106 | 53,000 | 45 | 64,000 | |
| 後 | 宿 | 36 | 18,000 | 2 | 2,000 | 定 | 光 | 18 | 9,000 | | | 小・中学校職員 | 97 | 48,500 | 10 | 18,000 | |
| 郷 | 中 | 11 | 5,500 | 22 | 22,000 | 木 | 橋 | 36 | 18,000 | | | 広域消防 | 11 | 5,500 | 2 | 2,000 | |
| 受 | 領 | 84 | 42,000 | 3 | 3,000 | 間 | 野 | 15 | 7,500 | 1 | 1,000 | 美浦出張所職員 | 214 | 107,000 | 57 | 192,000 | |
| 須 | 領 | 68 | 34,000 | 8 | 8,000 | 端 | 山 | 17 | 8,500 | | | 小計② | | | | | |
| 賀 | 津 | 89 | 44,500 | 4 | 4,000 | 土 | 浦 | 78 | 39,000 | | | 細谷建設工業協 | | | 1 | 30,000 | |
| 大 | 地 | 28 | 14,000 | | | 馬 | 山 | 18 | 9,000 | | | 稲敷農協安中支所 | | | 1 | 10,000 | |
| 宮 | 呂 | 15 | 7,500 | 5 | 7,500 | 大 | 掛 | 42 | 21,000 | | | 美浦村農協 | | | 1 | 10,000 | |
| 茂 | 郷 | 38 | 19,000 | 1 | 1,000 | 大 | 山 | 101 | 50,500 | 1 | 1,000 | 市川建設工業協 | | | 1 | 10,000 | |
| 余 | 郷 | 86 | 43,000 | 4 | 4,000 | 美 | 東 | 70 | 35,000 | | | サンファーム協 | | | 1 | 10,000 | |
| 石 | 郷 | 60 | 30,000 | | | 山 | 部 | 105 | 52,500 | | | 美浦電機工業協 | | | 1 | 10,000 | |
| 根 | 古 | 48 | 24,000 | | | 美 | A 1 | 89 | 45,750 | | | 丸井繊維工業協 | | | 1 | 10,000 | |
| 須 | 買 | 17 | 8,500 | | | 美 | A 2 | 96 | 48,800 | | | 鶴高橋工務店 | | | 1 | 10,000 | |
| 仲 | 妻 | 41 | 20,500 | 3 | 5,000 | 美 | A 3 | 69 | 35,750 | | | 鶴 タ ナ カ | | | 1 | 10,000 | |
| 給 | 付 | 22 | 11,000 | | | 美 | A 4 | 100 | 52,250 | | | 日本デキサスイ | | | 1 | 30,000 | |
| 南 | 原 | 84 | 42,000 | 2 | 2,000 | 美 | A 5 | 78 | 40,090 | | | スツルメンツ | | | 1 | 10,000 | |
| 興 | 津 | 26 | 13,000 | | | 美 | A 6 | 118 | 59,000 | | | スガノ農機協 | | | 1 | 10,000 | |
| 台 | 子 | 66 | 33,000 | | | 美 | A 7 | 97 | 48,500 | | | 関東エ電平協 | | | 1 | 50,000 | |
| 布 | 子 | 184 | 92,000 | | | 美 | A 8 | 115 | 57,500 | | | 小計③ | | | 13 | 210,000 | |
| 土 | 塚 | 155 | 77,500 | | | 美 | A 9 | 68 | 34,000 | | | 小計① | | | | | |
| 上 | 中 | 201 | 100,500 | | | 美 | B | 30 | 15,000 | | | 小計② | | | | | |
| 大 | 王 | 22 | 11,000 | 5 | 5,000 | 美 | C | 18 | 9,000 | | | 小計③ | | | | | |
| 谷 | 山 | 14 | 7,000 | | | 美 | D | 114 | 57,000 | | | 合計 | | | 1,733,640 | | |
| 山 | 内 | 14 | 7,000 | 1 | 1,000 | 小計① | | 3,240 | 1,626,640 | 63 | 67,500 | 合計 | | | 2,203,140 | | |
| | | 20 | 10,000 | 1 | 1,000 | | | | | | | | | | | | |

目標 一千万円

社会福祉基金「やまゆり基金」(敬称略)

社会福祉事業の安定した推進を図るためには、財源の確保が必要で、このため、村が提唱し、社会福祉協議会内に壹千萬元を目標として基金制度をつくり、達成後の利息を社協事業運営のための財源とすることで、昭和五十九年から地域のみなさんの協力を得て、預託していただきました。

前年度まで四百七十七万四千五百二十一円となり、今年度の善意の預託は次のとおりです。今後とも、なお一層のご協力をお願いいたします。

○山本泰全 三万円(大師講 剰余金)

○区長会 四万七千円(総会における協力)

○陸平地区地籍実施委員会 二万五千元(会剰余金)

○斉藤栄子 十万円(亡夫香典の一部)

○美浦トレセン関東労厚生部 六万五千円(特志預託)

○中住寿恵子 二十万円(亡夫香典の一部)

○美浦歌謡連盟(沼崎政夫代表) 十万円(チャリティ)

カラオケ大会(益金)

○産業文化祭実行委員会 四万円(チャリティ)

○美駒ポランティア(左近政子代表) 二万八千四百三十三円(文化祭街頭募金)

○公民館講座(潘フラワー) 五千円(講座生有志)

○商工会青年・婦人部 四万一千五百五十六円(商工祭 益金)

○霞ヶ浦湖南水産加工(協) 七千九百九十四円(商工祭 益金)

○村婦人会連合会 八万二千九百七十五円(文化祭 益金)

○村交通安全母の会 一万二千四百六十円(文化祭 益金)

○小沢石油 一万四千六百六十五円(店頭募金)

○美浦村民チャリティゴルフ大会実行委員会 三十四万四千円(チャリティ)

○酒井勇 五万円(ゴルフ大会)

○カスミグループ 一万円

○柳堀建設機工術 一万六千四百六十円

合計百二十一万四千二百八十九円の寄贈がありました。

共同募金 (行政区の戸別募金は500円以上)

| 募金者氏名 | 金額(円) |
|-----------------------|-----------|
| 行政区戸別募金(45地区) | 1,602,301 |
| 美浦村婦人会 | 25,000 |
| 美駒村婦人会 | 25,000 |
| 江戸崎、コスモスタンスクラブ | 10,000 |
| (株)美浦LPG組合 | 10,000 |
| 社協理事 飯田和夫 | 10,000 |
| 〃 浅野好造 | 10,000 |
| 美浦村民チャリティゴルフ大会ベナルティ募金 | 82,409 |
| 明治屋酒店 林文江 | 10,000 |
| 村議会議員(20名) | 20,000 |
| 村民生委員(18名) | 18,000 |
| 役場管理職一同 | 20,000 |
| 役場募金箱 | 11,650 |
| 軍恩連盟美浦支部 | 25,000 |
| 計 | 1,879,360 |

歳末たすけあい運動募金

| 募金者氏名 | 金額(円) | 摘要 |
|------------|-----------|-------------------|
| 行政区 | 1,298,683 | 1戸当り500円以上(区毎募金分) |
| 大谷保育所 | 8,881 | 職員カンパ |
| (株)丸善パチンコ店 | 50,000 | 店頭募金 |
| 産業文化祭実行委員会 | 50,000 | 文化祭益金(公民館扱) |
| 住民福祉課 | 8,700 | 窓口募金扱 |
| 元信太地区大師講 | 20,000 | 講の一部寄託 |
| 霞ヶ浦問題協議会 | 2,131 | 環境課扱 |
| 街頭募金 | 7,543 | 文化祭募金(社協) |
| 木原保育所 | 4,382 | 職員カンパ |
| 計 | 1,450,320 | |

歳末助け合い配分 (昭和62年12月29日)

| 配分対象者 | 世帯(人員) | 金額 | 備考 |
|-------------------------------|---------|------------|------------------------------|
| 生活保護世帯 | 14(25人) | 190,000円 | 一人世帯 12,000円 一人増す毎 2,000円 |
| 要援護世帯(低所得) | 20(48人) | 296,000円 | 同上 |
| ねたきり老人 | (21人) | 105,000円 | 一人 5,000円 |
| ひとりぐらし老人 | (37人) | 111,000円 | 一人 3,000円 (実人員44人) 辞退あり |
| 身体障害者 (重度1級) | (37人) | 180,000円 | 一人 5,000円 |
| 内訳 視覚 10人 肢体 11人 内部 15人 | | | |
| 福祉施設入所者 | (18人) | 54,000円 | 一人 3,000円 |
| 長期入院患者 | (26人) | 78,000円 | 一人 3,000円 |
| 社会適応訓練施設 | | | |
| 希望の広場ホープ農場 | 1施設 | 10,000円 | |
| 江戸崎町まごころ荘 | 1施設 | 10,000円 | 一か所 10,000円 |
| 県立美浦養護学校 | 1施設 | 10,000円 | |
| 社会適応訓練生 | (12人) | 60,000円 | 一人 5,000円 |
| 社協事業繰入金 | | 346,320円 | |
| 合計 | | 1,450,320円 | |

共同募金

共同募金は、毎年十月一日から十二月末日まで、国民的福祉の募金運動として私たちの生活の中に定着し、戸別毎に、あるいは、街頭募金活動と、

一方では篤志の方からの個別大口募金と幅広い活動を展開しております。
このお金は、一部を国や県全体の中での福祉施設に、あるいは、福祉団体活動に使われるほか、村の社会福祉協議会活動の有力な財源として活用されます。地域のみならずの善意の結集でもあります。ことは総額一、八七九、三六〇円となりました。明細は別記のとおりです。ご協力ありがとうございました。(割当額一、八二二、〇〇〇円)

歳末たすけあい運動

ご協力ありがとうございました

恵まれない方々に、よりよいお正月を迎えていただくために村民の善意による、歳末募金をお願いいたしました。総額、百四十五万三千二百二十円となりましたので、次のように配分し、民生委員さんが直接個別訪問のうえお届けいたしました。なお、地区別は会費と同じ扱いとなるので省略させていただきます。

ボランティア



数年前、大評判となったテレビ番組に「おしん」がありました。昔、庶民の暮らしがあの様に貧しかったころ、困難に出会うと、みんなでチエヤ力を出し合い助け合って生きてきました。

この「助け合い」という行為は、人間のもつごく自然な働きであります。それは「人」という文字の姿からもよく知ることが出来ます。そしてこの「助け合い」は人と人との「思いやる心」に根ざして表される行為であります。したがっていつの時代にも、無くならない心と行いであるといえます。

これが、ボランティアの精神であろうと思います。ボランティアとは「無給で社会的活動に自らすすんで参加する人」のことをいいます。

最近、物質的豊かさの中で精神的なもの例えば「思いやり」の心が失われてきているといわれます。特に、社会的に弱い立場において生活している人「ねたきり老人、ひとりぐらし老人、あるいは身障者」などの方々を行政では満たされない福祉を高めて行く必要があるといわれております。さらに、ボランティアに集まる原因として高齢化社会到来があります。生産年齢人

口が激減する高齢化社会は、助け合わなければ生きていけない社会があるわけです。このため、将来に向けて数多くのボランティアの活動を必要といたします。

本村も、社協を中心としてボランティアの育成に力を入れなければならぬ時になっております。地域のみなさんの多くの参加をお待ちしております。

育成

村にはボランティアの組織がないため、サークル活動がされている人達に呼びかけ、社協が中心となって希望者の方々を対象として勉強会を行いました。

最初の試みとして三十名余りの方々と共に次のようなことにとり組んでみました。

- 第1回 ボランティアとは。
- ボランティア(社会奉仕者)の理解と活動について。
- 第2回 施設研修

特別養護老人ホームへ行って寝たきり老人の介護と実情について研修しました。

第3回 友部町にて研修
ボランティアの活動状況を見聞のあと、県の精神薄弱者

の生活している施設見学。
第4回 活動と、とりくみ(まとめ)
村内における活動ととり組みについて、話し合いをしました。

活動

十月十七日
村の敬老会のお手伝いとして十名の方が出席、お茶くばりや、案内に参加しました。昨年までは婦人会のみなさんの協力でしたが、ことしから変わったものです。

十月二十四日
郡社会福祉大会が阿見町で開催され、八名参加しました。

十一月二十九日
筑波町で開かれた県南地区ボランティア振興大会に九名参加し、美浦村の紹介につとめました。

十二月二十八日
ひとりぐらし老人におせち料理を配るための準備に三名参加。煮物を作りました。

十二月二十九日
おせち料理四十三人分の盛りつけのため六名参加しました。
六十三年一月二十二日
ひとりぐらし老人の食事サ

お知らせ

昭和六十三年年度の社協の事業として村と共催による「わが村ボランティアまちづくり」の事業をとりあげます。

ボランティアに関心を持たれる方は勉強会も実施いたしますので、こぞって参加ください。社協(電話八五〇〇三八)へご連絡ください。

あとがき

広報とはなにか、などあらためて認識させられたものです。役場広報関係者の御指導と協力がなかったら、とても陽のあたるどころへは出られなかったのではないかと思います。

貴重な村人の財と、「思いやり」の心の中で運営される社協の発展のために、今後ともなお一層の努力をいたさねばと、覚悟をあらたにした次第です。

(事務局)